

政策整理番号 4

評価シート(A)

対象年度	H16	作成部課室	保健福祉部地域福祉課	関係部課室	
------	-----	-------	------------	-------	--

A - 1 - 1 政策と施策の関係・施策の体系:規則 § 6 1号関連

政策番号	1-1-4	政策名	誰もが暮らしやすいバリアフリー・ユニバーサルデザイン環境の整備
------	-------	-----	---------------------------------

政策概要	障害者や高齢者、妊婦や子どもをはじめ、だれもが不便を感じることなく安心して生活できる環境づくりを目指します。
------	--

施策番号	施策名 施策概要	政策評価指標
1	バリアフリー・ユニバーサルデザインの意識啓発 障害者や高齢者を特別視することなく、すべての人が個人として尊重され共に支え合いながら安心して生活できる社会を目指します。	・外出時に不自由を感じている障害者・高齢者の割合
2	誰もが利用しやすい施設や道路等の整備 だれもが楽に移動や活動のできるまちづくりを目指します。	・外出時に不自由を感じている障害者・高齢者の割合
3	誰もが利用しやすい情報の提供 だれもが必要な情報を取得したり、利用したりすることができるような環境を目指します。	
4	誰もが使いやすい製品づくり 年齢、性別、身体、国籍など、人々が持つ様々な特性や違いを越えて、できるだけ多くの人が利用しやすい製品づくりを進めます。	
5	バリアフリー等を進める専門家、NPO、ボランティアの育成 様々な県民のニーズに対応するため、専門家、NPO、ボランティアによるバリアフリー等に関する活動を支援し、育成します。	

A - 1 - 2 県民満足度(政策)の推移:規則 § 6 1号関連

(単位:点)

	第1回(H13)	第2回(H14)	第3回(H15)	第4回(H16)	
重視度(中央値) A	75	75	72	70	
満足度(中央値) B	56	55	53.5	55	
かい離 A-B 【かい離度】	19 【中】	20 【高い】	18.5 【中】	15 【中】	

かい離:極めて高い(40点以上),非常に高い(30点以上~40点未満),高い(20点以上~30点未満),中(10点以上~20点未満),低い(10点未満)

A - 1 施策群設定の妥当性:規則 § 6 1号

適切
概ね適切
課題有

<p>A-1-1 【政策目的に沿った施策か】 適切 ・各施策の概要は上記のとおりであり、政策の実現のためには5施策全てが引き続き必要である。 ・「だれもが住みよい福祉のまちづくり条例」の趣旨を踏まえ、バリアフリー社会の実現に向け支援を要する。</p> <p>【施策の重複・矛盾点の有無】 適切 ・各施策は目的に応じて適正に設定されており、重複や目的の矛盾はない。</p> <p>A-1-2, A-1-3 【県民満足度・社会経済情勢から見て必要か】 概ね適切 ・政策満足度のかい離は比較的高い状況で推移しており、本政策を必要と感じている。 ・高齢化の著しい進展を受け、バリアフリー社会を実現する上での基本となる施策1, 施策の優先度及びかい離が最も高い施策2の必要性を「大」とした。</p>
--

A - 1 - 3 一般県民満足度の推移と社会経済情勢(施策毎):規則 § 6 1号関連

施策番号	一般県民満足度調査結果(施策)			社会経済情勢に適合した施策か	必要性総括	
	優先度(直近の3回)	県民が必要と感じているか()				
1	第4回 6.9%	4位	・本施策の優先度は5施策中4位である。 ・本施策のかい離は15点と中程度である。 【結論】 必要性:あまり感じていない	・施策の優先度は第4位と低いが、高齢化社会の著しい進展を受け、バリアフリー、ユニバーサルデザインの普及・意識啓発は、バリアフリー社会を実現する上でもっとも基本となる重要な施策である。 ・施策の優先度は他施策より著しく高く、かい離も30点と高い。 ・高齢化社会の進展を受け、本施策の必要性はもっとも高く、「だれもが住みよい福祉のまちづくり条例」等の趣旨を踏まえ、引き続き重点的に施策の推進が必要である。 ・施策の優先度は2番目に高く、かい離も18点と比較的高い。 ・視覚障害者や聴覚障害者はまだ情報を得にくい状況にあり、引き続き施策を推進する必要がある。 ・施策の優先度は低く、かい離も比較的少ない。 ・しかし、個人の様々な特性を越えて、できるだけ多くの人が利用しやすいように配慮した製品の開発や環境づくりのための普及・啓発を引き続き施策として推進する必要がある。 ・施策の優先度は3番目で、かい離は20点と比較的高い。 ・他の施策の推進においても、NPO、ボランティア及び専門家等の人材育成は不可欠であり、引き続き施策を推進する必要がある。	大	
	第3回 6.9%	4位				
	第2回 7.8%	4位				
2	66.0%	1位	・本施策の優先度は5施策中1位である。 ・本施策のかい離は30点と非常に高い。 【結論】 必要性:非常に感じている		・施策の優先度は2番目に高く、かい離も18点と比較的高い。 ・視覚障害者や聴覚障害者はまだ情報を得にくい状況にあり、引き続き施策を推進する必要がある。 ・施策の優先度は低く、かい離も比較的少ない。 ・しかし、個人の様々な特性を越えて、できるだけ多くの人が利用しやすいように配慮した製品の開発や環境づくりのための普及・啓発を引き続き施策として推進する必要がある。 ・施策の優先度は3番目で、かい離は20点と比較的高い。 ・他の施策の推進においても、NPO、ボランティア及び専門家等の人材育成は不可欠であり、引き続き施策を推進する必要がある。	大
	67.7%	1位				
	66.6%	1位				
3	13.0%	2位	・本施策の優先度は5施策中2位である。 ・本施策のかい離は18点と中程度である。 【結論】 必要性:比較的感じていない	・施策の優先度は2番目に高く、かい離も18点と比較的高い。 ・視覚障害者や聴覚障害者はまだ情報を得にくい状況にあり、引き続き施策を推進する必要がある。 ・施策の優先度は低く、かい離も比較的少ない。 ・しかし、個人の様々な特性を越えて、できるだけ多くの人が利用しやすいように配慮した製品の開発や環境づくりのための普及・啓発を引き続き施策として推進する必要がある。 ・施策の優先度は3番目で、かい離は20点と比較的高い。 ・他の施策の推進においても、NPO、ボランティア及び専門家等の人材育成は不可欠であり、引き続き施策を推進する必要がある。		中
	12.0%	2位				
	11.6%	2位				
4	4.2%	5位	・本施策の優先度は5施策中5位である。 ・本施策のかい離は10点と中程度である。 【結論】 必要性:あまり感じていない		・施策の優先度は2番目に高く、かい離も18点と比較的高い。 ・視覚障害者や聴覚障害者はまだ情報を得にくい状況にあり、引き続き施策を推進する必要がある。 ・施策の優先度は低く、かい離も比較的少ない。 ・しかし、個人の様々な特性を越えて、できるだけ多くの人が利用しやすいように配慮した製品の開発や環境づくりのための普及・啓発を引き続き施策として推進する必要がある。 ・施策の優先度は3番目で、かい離は20点と比較的高い。 ・他の施策の推進においても、NPO、ボランティア及び専門家等の人材育成は不可欠であり、引き続き施策を推進する必要がある。	中
	4.2%	5位				
	4.2%	5位				
5	9.3%	3位	・本施策の優先度は5施策中3位である。 ・本施策のかい離は20点と高い。 【結論】 必要性:比較的感じていない	・施策の優先度は2番目に高く、かい離も18点と比較的高い。 ・視覚障害者や聴覚障害者はまだ情報を得にくい状況にあり、引き続き施策を推進する必要がある。 ・施策の優先度は低く、かい離も比較的少ない。 ・しかし、個人の様々な特性を越えて、できるだけ多くの人が利用しやすいように配慮した製品の開発や環境づくりのための普及・啓発を引き続き施策として推進する必要がある。 ・施策の優先度は3番目で、かい離は20点と比較的高い。 ・他の施策の推進においても、NPO、ボランティア及び専門家等の人材育成は不可欠であり、引き続き施策を推進する必要がある。		中
	8.9%	3位				
	9.1%	3位				

必要性のランク【結論】:非常に感じている > かなり感じている > ある程度感じている > 比較的感じていない > あまり感じていない

A - 2 政策評価指標群の妥当性:規則 § 6 2号

適切 概ね適切 課題有

【施策の有効性を評価する上で適切か】 適切
 ・政策評価指標「外出時に不自由を感じている障害者・高齢者の割合」は、高齢者や障害を持つ県民に直接アンケート調査しており、県民の満足度を知る上で有効な評価手段であり、適切な政策評価指標と判断する。
 「政策評価指標分析カード」から

【重視すべき施策に指標が設定されているか】 適切
 ・必要性を「大」とした施策全てに指標が設定されており適切である。

A - 3 施策群の有効性:規則 § 6 3号

有効 概ね有効 課題有

評価シート(B) A-3-1「施策の有効性」から

視点	政策全体	施策1	施策2				
政策評価指標達成度	有効	有効	有効				
県民満足度	概ね有効	概ね有効	概ね有効				
社会経済情勢	概ね有効	概ね有効	概ね有効				
全体	概ね有効	概ね有効	概ね有効				

A 政策評価(総括):規則 § 6

適切 概ね適切 課題有

・当該施策に関し、施設群設定の妥当性(A-1)、政策評価指標群の妥当性(A-2)、施策群の有効性(A-3)を総合的に検証した結果、「適切」と判断する。

対象年度 H16

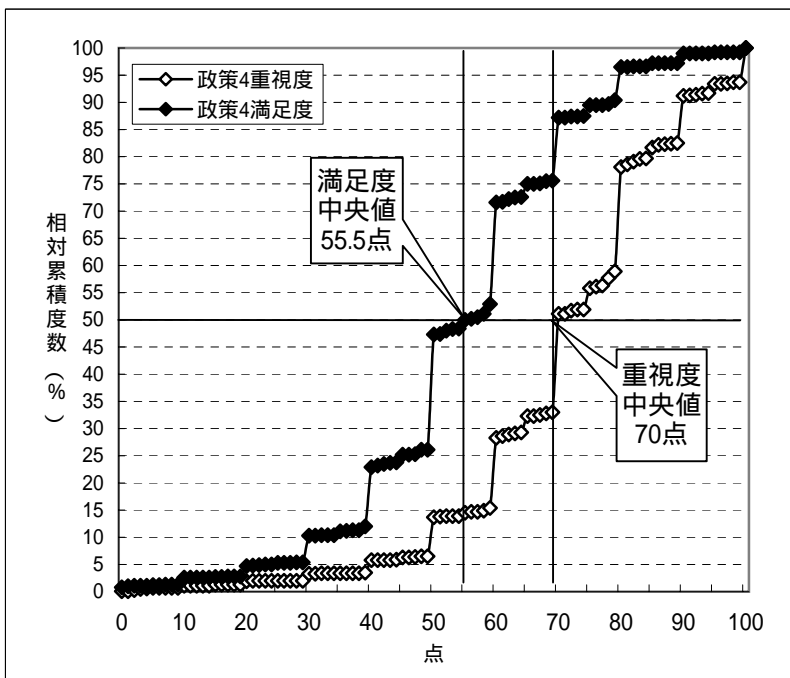
政策番号 1-1-4

政策名 誰もが暮らしやすいバリアフリー・ユニバーサルデザイン環境の整備

(1) 一般県民満足度調査結果

高関心度 65.7

高認知度 53.7

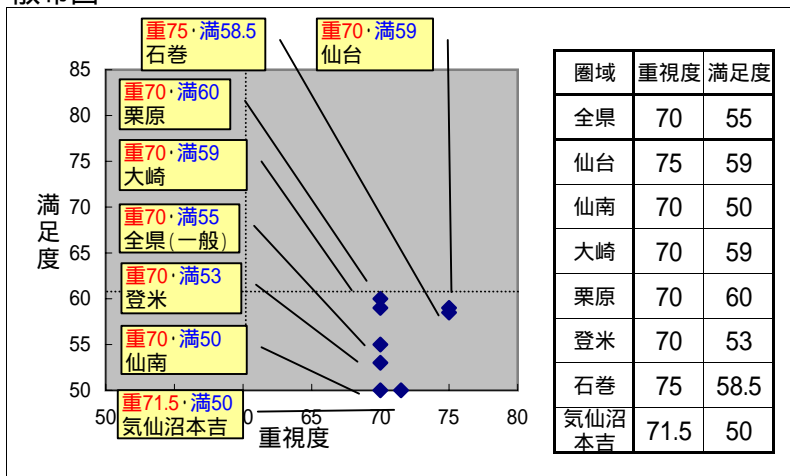


高関心度
「政策」の内容に対する関心の高さを示す数値であり、満足度調査の関心度に関する設問中「関心があった」、「ある程度関心があった」を選択した回答者の全回答者に対する割合

高認知度
「政策」の内容について知っている度合いの高さを示す数値であり、満足度調査の認知度に関する設問中「知っていた」、「ある程度知っていた」を選択した回答者の全回答者に対する割合

基本統計量						
全県						
項目	重視度			満足度		
	一般	市町村	学識者	一般	市町村	学識者
中央値	70	70	78	55	59	60
第1四分位	-	-	-	45	50	50
第3四分位	-	-	-	66	66	70
四分偏差	-	-	-	10.5	8	10

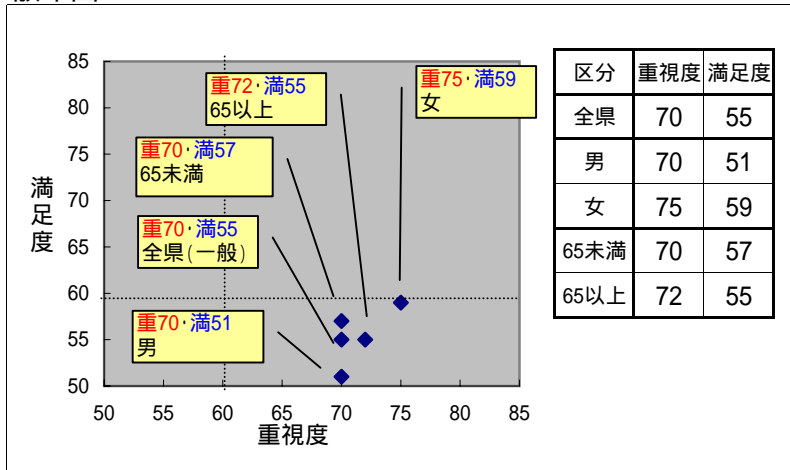
散布図



圏域別中央値(一般、市町村のみ)

圏域	重視度			満足度		
	一般	市町村	学識者	一般	市町村	学識者
全県	70	70	78	55	59	60
仙台	75	70	-	59	60	-
仙南	70	70	-	50	50	-
大崎	70	70	-	59	60	-
栗原	70	70	-	60	60	-
登米	70	77.5	-	53	60	-
石巻	75	70	-	58.5	53	-
気仙沼本吉	71.5	70	-	50	55	-

散布図



男女別・年代別中央値(一般のみ)

区分	重視度			満足度		
	一般	市町村	学識者	一般	市町村	学識者
全県	70	70	78	55	59	60
男	70	-	-	51	-	-
女	75	-	-	59	-	-
65未満	70	-	-	57	-	-
65以上	72	-	-	55	-	-

対象年度 H16

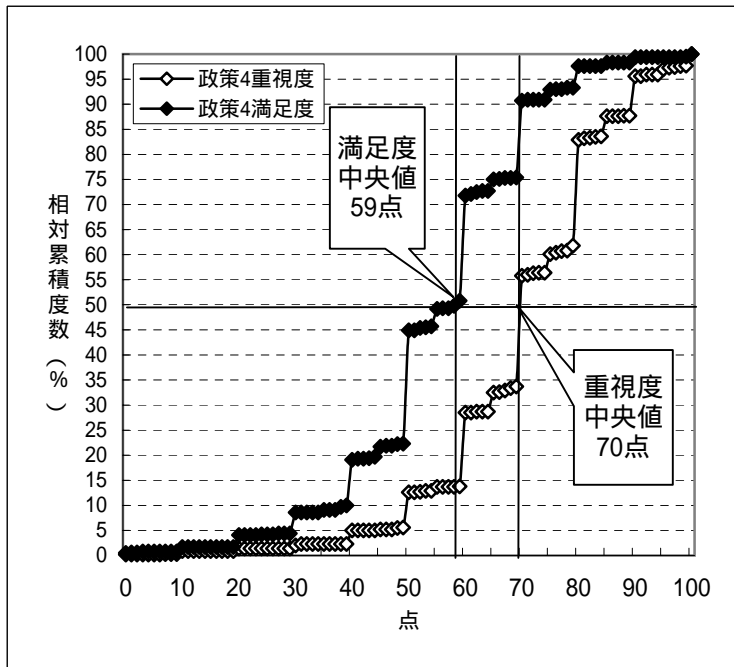
政策番号 1-1-4

政策名 誰もが暮らしやすいバリアフリー・ユニバーサルデザイン環境の整備

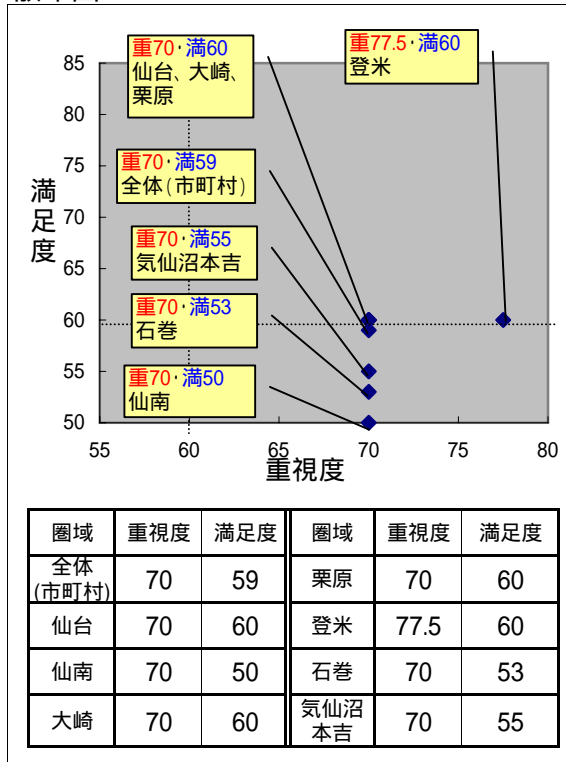
(2) 有識者(市町村) 県民満足度調査結果

高関心度 70.6

高認知度 71.9



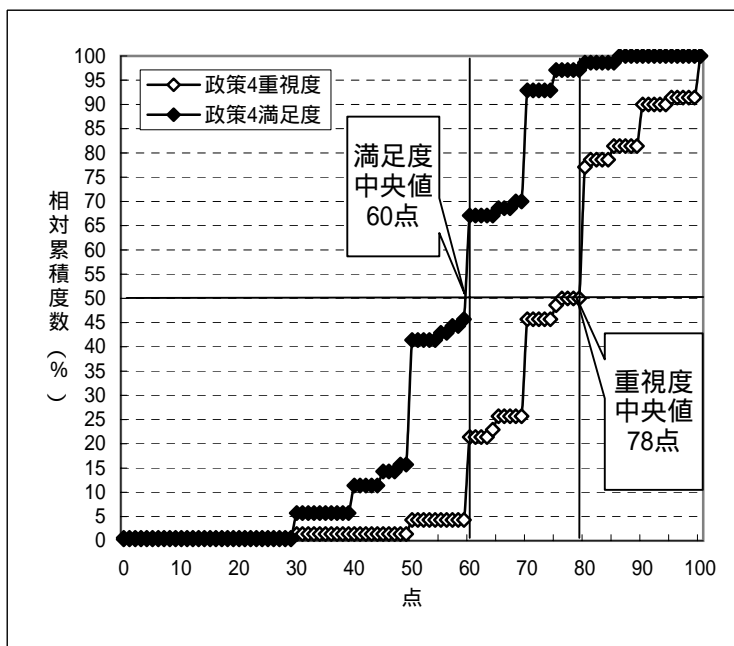
散布図



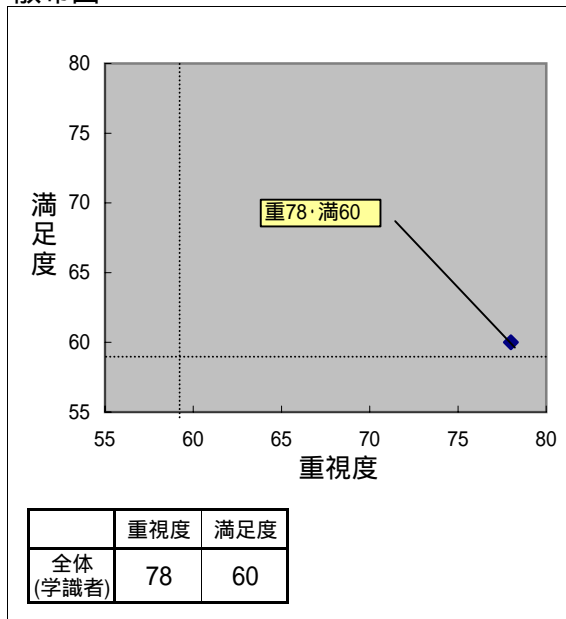
(3) 有識者(学識者) 県民満足度調査結果

高関心度 80.0

高認知度 80.0



散布図

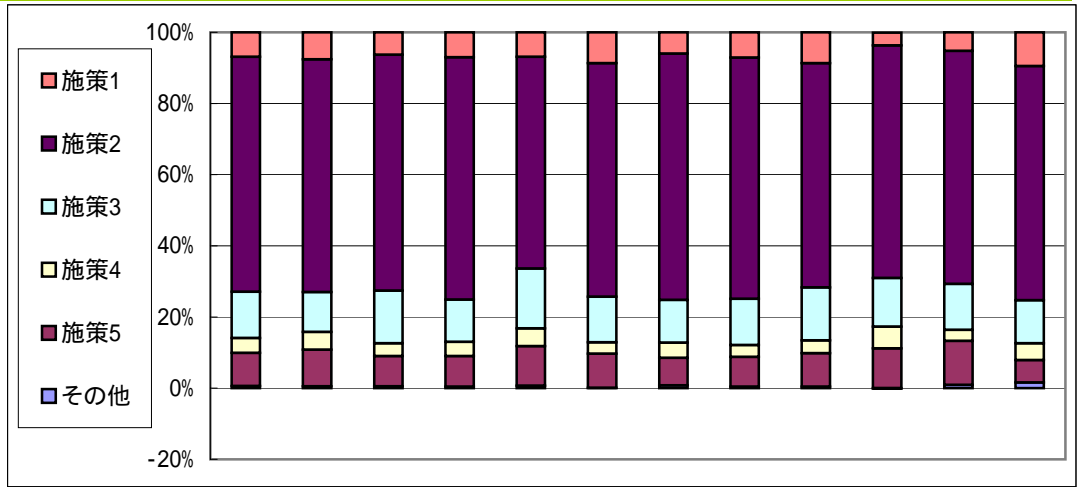


対象年度 H16

政策番号 1-1-4

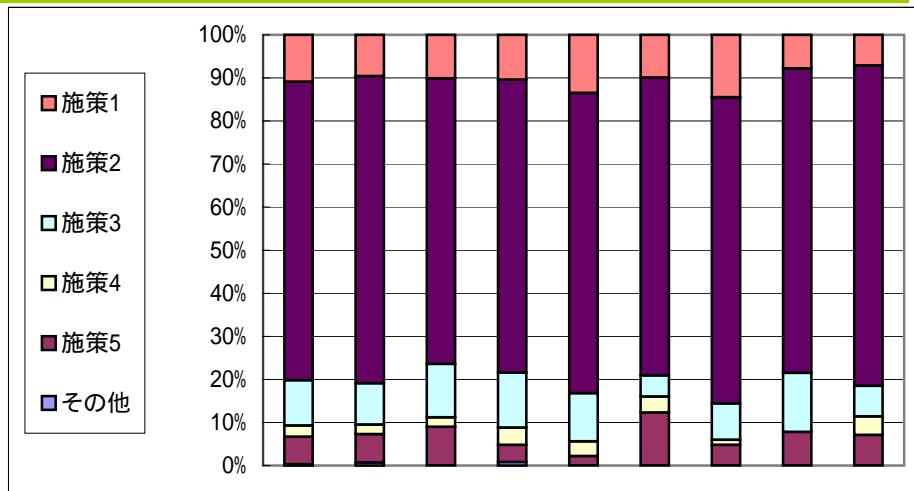
政策名 誰もが暮らしやすいバリアフリー・ユニバーサルデザイン環境の整備

(4) 一般県民満足度結果(施策別・優先度1位割合)



施策番号	施策名	全体	男	女	65未満	65以上	仙台	仙南	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼 本吉
施策1	バリアフリー・ユニバーサルデザインの意識啓発	6.9	7.6	6.3	7.0	6.9	8.7	6.0	7.1	8.7	3.6	5.2	9.5
施策2	誰もが利用しやすい施設や道路等の整備	66.0	65.4	66.3	68.1	59.5	65.6	69.2	67.8	63.0	65.5	65.5	65.8
施策3	誰もが利用しやすい情報の提供	13.0	11.2	14.8	11.9	16.8	12.8	12.0	13.0	14.9	13.7	12.9	12.1
施策4	誰もが使いやすい製品づくり	4.2	5.0	3.6	4.0	5.0	3.2	4.3	3.3	3.6	6.1	3.1	4.7
施策5	バリアフリー等を進める専門家、NPO、ボランティアの育成	9.3	10.3	8.5	8.6	11.1	9.6	7.7	8.4	9.4	11.2	12.4	6.3
	その他	0.6	0.5	0.5	0.4	0.7	0.1	0.8	0.4	0.4	-0.1	0.9	1.6

(5) 有識者(市町村・学識者)県民満足度結果(施策別・優先度1位割合)



施策番号	施策名	市町村優先度								学識者優先度
		全体	仙台	仙南	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼 本吉	
施策1	バリアフリー・ユニバーサルデザインの意識啓発	10.9	9.6	10.1	10.4	13.5	9.9	14.5	7.8	7.1
施策2	誰もが利用しやすい施設や道路等の整備	69.3	71.3	66.3	68.0	69.7	69.1	71.1	70.6	74.3
施策3	誰もが利用しやすい情報の提供	10.5	9.6	12.4	12.8	11.2	4.9	8.4	13.7	7.1
施策4	誰もが使いやすい製品づくり	2.6	2.2	2.2	4.0	3.4	3.7	1.2	0.0	4.3
施策5	バリアフリー等を進める専門家、NPO、ボランティアの育成	6.4	6.6	9.0	4.0	2.2	12.3	4.8	7.8	7.1
	その他	0.3	0.7	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0